

■今月の特選句

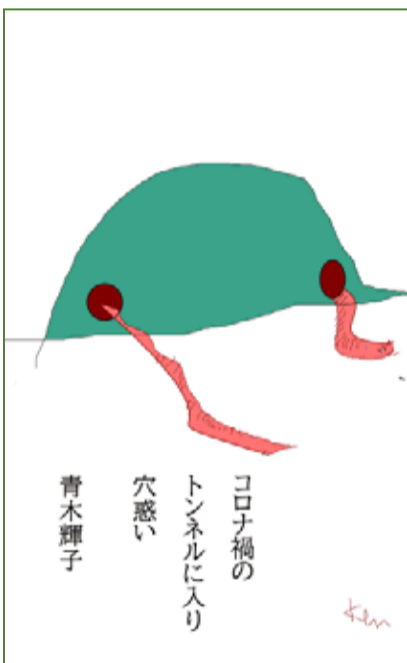
2021年12月



高鋏よろけて柿の空掴む

椋本望生

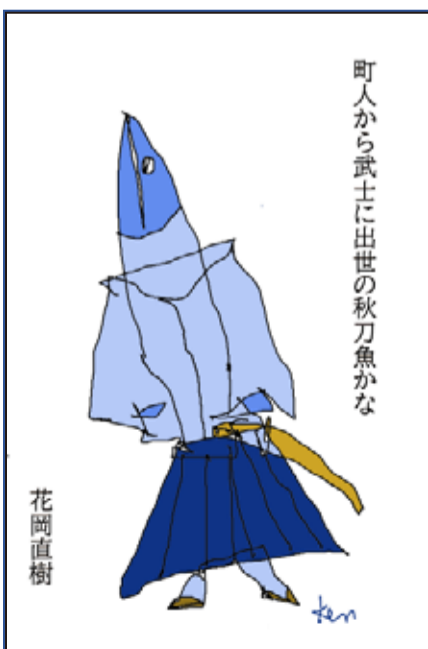
高鋏は使い方が難しい。何事も経験がモノを言うんじゃ。逆光はいかん。爺のやり方を見ておれよ。おととと、柿を採り損ねて空を掴んだわい。



コロナ禍のトンネルに入り穴惑い

青木輝子

ほほう、これは新型の穴だな。探した甲斐があるというものだ。あれれ、この穴は奥が深いぞ。ああ、新型コロナのトンネルか。どうりで先が見えん。



町人から武士に出世の秋刀魚かな

花岡直樹

皆の者、控えおろう。店頭で秋刀魚様がお出ましじゃ。これまで食い散らかされて辛い思いをしたが価格も高騰、今や目黒の秋刀魚の名に恥じぬ。

■今月の特選句

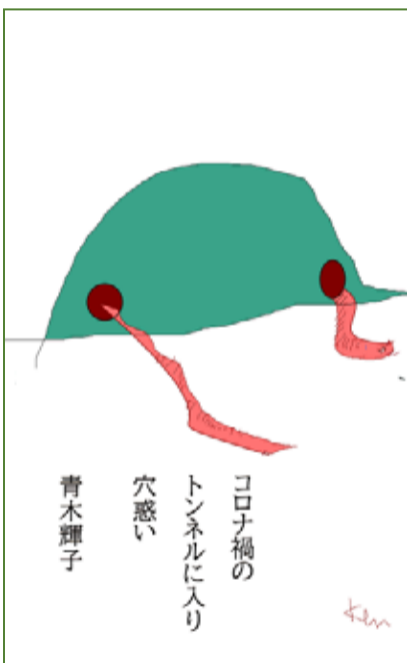
2021年12月



高鉞よろけて柿の空掴む

棕本望生

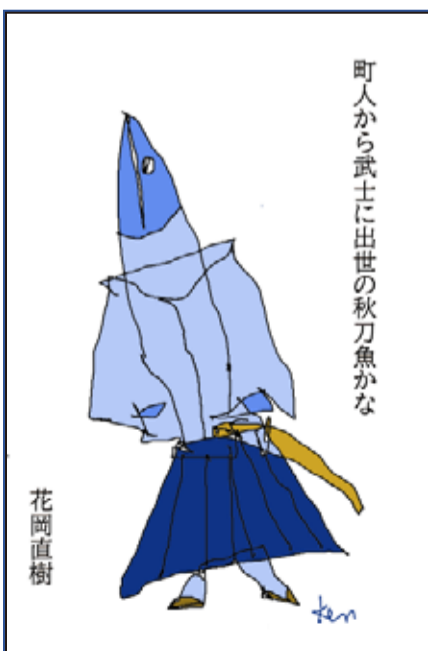
高鉞は使い方が難しい。何事も経験がモノを言うんじゃ。逆光はいかん。爺のやり方を見ておれよ。おととと、柿を採り損ねて空を掴んだわい。



コロナ禍のトンネルに入り穴惑い

青木輝子

ほほう、これは新型の穴だな。探した甲斐があるというものだ。あれれ、この穴は奥が深いぞ。ああ、新型コロナのトンネルか。どうりで先が見えん。



町人から武士に出世の秋刀魚かな

花岡直樹

皆の者、控えおろう。店頭で秋刀魚様がお出ましじゃ。これまで食い散らかされて辛い思いをしたが価格も高騰、今や目黒の秋刀魚の名に恥じぬ。

■今月の秀逸句（・・・七七をつけてみました）

我がもの顔や絆纏(はんてん)にもぐる猫 ・・・甘えさせると図に乗るんだよ	小笠原満喜恵
番犬も仕事忘るる小春かな ・・・この犬もまた飼い主の真似	永易しのぶ
GOTOで周遊している神の旅 ・・・コロナ疲れを癒す神々	長井知則
冬風をゆくローカル列車のコットンコットン ・・・通学電車の懐かしき音	上山美穂
生姜湯に喉の仏が動き出す ・・・喉はホントは般若湯好き	稲葉純子
山の芋地球の芯に向ひ掘る ・・・マグマ手前で掘るをやめとけ	壽命秀次
不用品に出したき冬の痛む肩 ・・・肩代わりするものはないのに	高橋きのこ
その先の何かを信じ日記買ふ ・・・日記に書くや信じた愚かさ	吉原瑞雲
大縄を跳んで重ねる息ひとつ ・・・だけど思いは別々かもね	八塚一青
犬連れて動物園へ文化の日 ・・・犬に連れられ動物園かも	遠藤真太郎
コロナ禍で季語失格のマスクかな ・・・マスクの俳句作らずに済み	花岡直樹
悴みてペンを落として句も逃す ・・・なんと悔しや大魚の一句	久松久子
風の芯我を突き刺し冬来たる ・・・人間とても干物になるや	森岡香代子

■今月の滑稽句

* 今月の特選句・秀逸句以外の佳句を青字で表示しています。

いたづらに空のかはるは秋のくせ

コスモスにそつとよせたる唇を

見上げても金木犀はまだ咲かぬ

コロナ禍の商店街におけら鳴く

秋の暮自転車デッドヒートして

お化粧でリメイク詐欺の生身魂

年取れば女も頑固藪からし

往年のスタアもむなし木の葉髪

蓑虫の糸一本の孤となりぬ

催眠の葉はいらぬ落葉かな

故郷の河原に続く冬田かな

いけめんの墓蛙いぼだのあばただの

とうきびの金髪うらやむ枯れすすき

秋の夜僧の十八番のレットイトビー

口いっぱい孫と頬張る茹で大豆

そこかしこ泡立草の席卷す

朝寒か否クーラーの消し忘れ

何時までも肌寒来ない此処マニラ

庭に出て爽涼捜し玉の汗

ピカソには青の時代が冬に入る

犬眠る日の当たるところには秋

切干の味いつの間にやら母の味

いつの間に半額シールが外套に

さりげなく隣に落葉掃かれけり

懐手自動ドア「押す」に立ち止まる

小春日やふらり自転車遠回り

白鷺のばたばたすーっと空に消え

ベランダで夕陽を惜しむ秋の暮

秋晴の空に天守閣と雲一つ

お散歩の空に見つけて冬の虹

再校のゲラを再考年の暮

ダム工事の仮設トイレに銀狐

三日月をバナナアートのやうに描く

紅葉して熟女のごとし花みづき

さっそくにスマホで写す七五三

霜降の森行く我が身冷えきつて

秋の空友県展の大賞受く

相原共良

相原共良

相原共良

青木輝子

青木輝子

青木輝子

赤瀬川至安

赤瀬川至安

井口夏子

井口夏子

井口夏子

池田亮二

池田亮二

石塚柚彩

石塚柚彩

石塚柚彩

伊藤浩睦

伊藤浩睦

伊藤浩睦

稲沢進一

稲沢進一

稲葉純子

稲葉純子

井野ひろみ

井野ひろみ

上山美穂

上山美穂

梅野光子

梅野光子

梅野光子

遠藤真太郎

遠藤真太郎

大林和代

大林和代

大林和代

小笠原満喜恵

小笠原満喜恵

蚊の声を聞かなくなれば湯冷めかな
 夜遊びの我が家の守宮名は与太郎
 顔見世の太丸文字の黒々と
 外に出すお仕置き毛布持たせてる
 冬に入る朱の訂正印あちこちに
 ザラメから綿菓子生まれ秋うらら
 秋遍路南無阿弥陀仏南無阿弥陀仏
 身は沖縄心は伊予に秋遍路
 寝違いの見返り美人雁渡る
 草もみぢ固めて治す病気とか
 切りたての食パンでこぼこ山笑ふ
 柿を挽ぐ竿の先端泳ぎけり
 恍惚とほくそ笑みたる酔芙蓉
 地芝居の床を確かめ見得を切る
 裏路地に魚を捌く菊日和
 スマートフォンと書いて夜長と読むなんて
 冬の日がぬくぬくさせる四畳半
 おひねりに一時休戦村芝居
 野分ならその背にほしき背番号
 とろろ汁準備二時間食一分
 ハロウインのグッズずらりと百均に
 面の皮厚くなりをり秋茄子
 秋らしき日の無きままに寒くなり
 垂れ下がる巨峰たわわな胸が狩る
 新米を炊く釜の音嬉しさう
 秋刀魚焼くうしろ姿の父猫背
 朝一番目覚まし代わりの鴉高音
 予報士の鼻を明かして台風来
 新聞のインクの匂ひ文化の日
 理科室のクロロホルムやそぞろ寒
 名残り花しかも雄花真っ黄色
 蛙の掬秋彼岸に一線を引く
 着いておいでよセキレイの尾を信じて
 若いままいたいと願へど年歩む
 凡人の耳に聞こえず雪の声
 赤い糸切れては結び神の旅
 自他共に雨女来る紅葉狩
 初時雨吟行先はカフェとなり

岡田廣江
 岡田廣江
 岡田廣江
 北熊紀生
 北熊紀生
 金城正則
 金城正則
 金城正則
 久我正明
 久我正明
 久我正明
 久我正明
 工藤泰子
 工藤泰子
 工藤泰子
 桑田愛子
 桑田愛子
 桑田愛子
 小林英昭
 小林英昭
 小林英昭
 佐野萬里子
 佐野萬里子
 佐野萬里子
 壽命秀次
 壽命秀次
 白井道義
 白井道義
 白井道義
 鈴鹿洋子
 鈴鹿洋子
 鈴木和枝
 鈴木和枝
 鈴木和枝
 高田敏男
 高田敏男
 高田敏男
 高橋きのこ
 高橋きのこ

年忘れ禿頭で歌う「乱れ髪」	竹下和宏
電報！に驚かぬ世や冬灯	竹下和宏
マスクして多弁となりし眼かな	竹下和宏
松手入松には仙人棲む気配	田中 勇
少年のおやつとなりし蓮の実	田中 勇
老人の顔を好むや秋の蚊は	田中 勇
此の恋の末路を知らず雄螻蛄	田中早苗
感染を間染と書き秋燈下	田中早苗
農道や団栗蹴散らしバイク駆る	田中早苗
納豆汁腱鞘炎の吾にかな	田中やすあき
招き猫置いて夜逃げの大晦日	田中やすあき
重ね着の脱げども更に皮下脂肪	田中やすあき
ゴッホはねさみしがりやよ星月夜	谷本 宴
モヒカンが正しく礼す秋の朝	谷本 宴
ほらそこでのっぼのススキ思案中	谷本 宴
竹百回踏むもスポーツ秋暑し	田村米生
目鼻立ち良き秋刀魚買うお婆かな	田村米生
立ち直る尾花倒れたままの看板	月城花風
無言の会食にもの申す林檎	月城花風
風当たり強き世を知る案山子かな	月城花風
律の風カーペンターズ連れてくる	土屋泰山
芋煮会猫舌息を吐くばかり	土屋泰山
宵闇の赤提灯も昼行灯	土屋泰山
半袖のうでにひんやり秋の風	坪田節子
コロナ禍に頑張ってよと大花火	坪田節子
コハクチヨウシベリアからの贈り物	坪田節子
小六月杖の代わりに男傘	飛田正勝
もみがらにまみれて二つ自然薯(やまのいも)	飛田正勝
吉原を知らぬ卒寿や三の酉	飛田正勝
ガラスに挟み栃錦の青写真	長井知則
庭に穴亥の子の童ら来ぬままに	長井知則
参道の長き道くさ七五三	永易しのぶ
小春日に孫と歌うや手をつなぎ	永易しのぶ
大手門搦手門も冬ざるる	名本敦子
山茶花や日に抱かれて義士の墓	名本敦子
湯気たててまなぶた重し秋の夜	名本敦子
赤い羽根針からテープに進化して	花岡直樹
冬眠にあこがれビール買い貯める	花岡直樹

秋高し脳より大き駝鳥の目
 マイケルのムーンウォークや十三夜
 柚子坊のいる枝うつかり掴みかけ
 こんにゃくの縮み上がって針供養
 本当の店仕舞ひです年の市
 煮卵のコツを覚えて秋の暮
 初紅葉描く神々絵筆手に
 案山子にもマスクをつけてあげたいな
 諦めの巨人に喰わせ唐辛子
 台風が来るか逸れるか大違い
 痩せ細る秋刀魚が二匹皿の上
 秋潮の浚う豊胸砂人形
 生い立ちは純白の花唐辛子
 ほっとけば赤くなるのよ唐辛子
 残る虫始発電車に夜の顔
 一の酉車内は福の背比べ
 数へ日を数へぬ人と昼の酒
 二才四才六才も七五三
 トーチキスさせて鶏頭真つ赤つか
 蓑虫の衣食住かなローン組む
 指先にゆらりどんぐりのやじろべえ
 切り株をまな板にして柿を剥く
 車のナンバーと記念日が同じ冬の朝
 句敵に山の土産の猿酒(ましらざけ)
 ポケットにチューインガムや敗戦忌
 百日紅申年の妻よくしゃべる
 北風のスカートめくり悪い癖
 柚子風呂に充滿してゐる柚子の湯気
 長生きも勲章ものよ文化の日
 新走慌てて喉をつんのめり
 しつつこい人新松子の脂みたい
 間違えて照れ笑いする帰り花
 毛皮着て動物園にいる私
 マスクした上に仮面の舞踏会
 豊の秋ゴールへ腹を突き出して
 高速道路は串を刺すごと山笑ふ
 これがかの三段引か紅葉鯛
 熊避けの鉄板巻かれ柿熟す
 しぐるるや十二回目の車検済む

浜田イツミ
 浜田イツミ
 浜田イツミ
 久松久子
 久松久子
 日根野聖子
 日根野聖子
 日根野聖子
 細川岩男
 細川岩男
 細川岩男
 南とんぼ
 南とんぼ
 南とんぼ
 峰崎成規
 峰崎成規
 峰崎成規
 椋本望生
 椋本望生
 椋本望生
 向田将央
 向田将央
 向田将央
 村松道夫
 村松道夫
 村松道夫
 森岡香代子
 森岡香代子
 八木 健
 八木 健
 八木 健
 八塚一青
 八塚一青
 柳 紅生
 柳 紅生
 柳 紅生
 柳村光寛
 柳村光寛
 柳村光寛

秋の蚊を取り逃がすこと早二日
 冬支度ポットとマグと紅茶から
 近道の目じるし石蕨の花の家
 重荷と書いてじゅうにと読ませ十二月
 あられの子コリンとパリンといふ名前
 鉄砲玉あられあられあばれられ
 茸飯魚沼産のコシヒカリ
 秋寂ぶやひとり居の吾を待つ灯が一つ
 じいちゃんの手品の太指花ハツ手
 咲くは隣に散るはこちらに木犀
 この際思う木犀の犀はサイ
 侍を気取る袴の七五三
 三密に悩む神様神無月
 語り合ひ房を寄せ合ふ葡萄かな
 捨て案山子後期高齢田んぼにも
 木の葉舞ふ精一杯に生き終えて
 落武者に水のつめたき永田川
 寒猿は人走らせて北叟(ほくそ)笑む
 魍魎のはしやぎはじめし冬隣
 冬支度ぼつてり器並びたる
 包丁の刃に大根は弾けをり
 コンビニへ無銭の猪の体当たり
 招かぬにベランダに猿月の宴

山内 更
 山内 更
 山内 更
 山下正純
 山下正純
 山下正純
 山田真佐子
 山田真佐子
 山田真佐子
 山本 賜
 山本 賜
 横山洋子
 横山洋子
 横山洋子
 吉川正紀子
 吉川正紀子
 吉原瑞雲
 吉原瑞雲
 渡部美香
 渡部美香
 渡部美香
 和田のり子
 和田のり子